

報告書抄録

ふりがな								
書名								
副書名								
巻次								
シリーズ名	京都府遺跡調査報告集							
シリーズ番号	第128冊							
編著者名								
編集機関	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター							
所在地	〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40-3			Tel		075(933)3877		
発行年月日	西暦 2008 年 3 月 31 日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "		m ²	
のじょういせき だいじゅう・ じゅうにじ、む ろはしいせきだ いごじ 野条遺跡第10・ 12次、室橋遺跡 第5次	きょうとふなん たんしやぎちよ うむろはし 京都府南丹市八 木町室橋	26482	6・59	33° 05' 58"	135° 31' 48"	20051024 ～ 20060130 20060728 ～ 20060926 20060911 ～ 20070209	2,500	道路建設
なんばのいせ き・なんばの じょうりせいい せき、おおがき いせき・いちの みやいせき 難波野遺跡・難 波野条里制遺 跡、大垣遺跡・ 一の宮遺跡	きょうとふみや づしおおがき、 なんばの、えじ り 京都府宮津市大 垣、難波野、江 尻	26205	37・40・ 41	35° 34' 54"	135° 11' 52"	20060927 ～ 20070209 20070612 ～ 20070830	2,150	道路建設
みやづじょうあ とだいじゅうさ ん・じゅうよじ 宮津城跡第13・ 14次	きょうとふみや づしつるが 京都府宮津市鶴 賀	26205	87	35° 32' 06"	135° 11' 45"	20060605 ～ 20060830 20061218 ～ 20070126 20070528 ～ 20070830	820 690	河川改修
たにおくこふん ぐん 谷奥古墳群	きょうとふきよ うたんごしやさ かちょうおおあ ざきばしこあざ たにおく・きば しざき 京都府京丹後市 弥栄町大字木橋 小字谷奥・木橋 崎	26212	36	35° 40' 28"	135° 04' 23"	20060925 ～ 20061222 20070618 ～ 20071129	620 3,085	道路建設
なかやまじょう あとだいのん じ・なかやまき んせいほ 中山城跡第4 次・中山近世墓	きょうとふまい づるしなかや ま・みずま 京都府舞鶴市中 山・水間	26202	63・69	35° 28' 03"	135° 17' 00"	20070619 ～ 20070810 20071002 ～ 20071221	700	道路建設

たきぎいせきだ いはちじ	きょうとふきよ うたなべしお あざたきぎこ あざたかぎ・せ ば にち							
薪遺跡第8次	京都府京田辺市 大字薪小字高 木・狭道	26342	24	34° 49' 32"	135° 45' 21"	20060618 ～ 20061222	2,800	道路建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
野条遺跡第10・ 12次、室橋遺跡 第5次	集落	弥生～古墳 奈良 平安		竪穴式住居跡・掘立柱建物 跡・溝・井戸・土坑・柱穴		弥生土器/土師器/ 須恵器/瓦器/緑釉 陶器/灰釉陶器/青 磁・白磁/土錘/分 銅/石鏃		条里型地割 に沿う建物 跡・溝の検 出
難波野遺跡・難 波野条里制遺 跡、大垣遺跡・ 一の宮遺跡	集落跡	古墳時代中期・平 安時代・中世		祭祀遺構・掘立柱建物跡・柵 列・石積み遺構・井戸・溝		土師器/須恵器/中 国製陶磁器/木簡/ 漆器/木製品/石製 品		
宮津城跡第13・ 14次	城跡	安土桃山～江戸時 代		枅形虎口・土塁・城内道路・ 溝・石垣・井戸		瓦/近世陶磁器/朝 鮮製陶器/漆碗/木 製品		宮津城三の 丸の城内通 路と武家屋 敷の一角を 検出。
谷奥古墳群	古墳	古墳時代		古墳		土師器/鏡片/ガラ ス小玉/鉄剣/鉄鏃		割竹形木棺 (8号)
中山城跡第4 次・中山近世墓	山城・近世墓	中世～近世		土塁・堀切・近世墓		錫杖/銅鏡/金具/ 古銭		
薪遺跡第8次	集落	古墳時代・奈良時 代		古墳・竪穴式住居跡・掘立柱 建物跡・土坑・溝		土師器/須恵器/円 筒埴輪/形象埴輪/ 製塩土器/緑釉陶 器		大型円面 硯、銅製鉈 尾
<p>野条遺跡の調査では、奈良時代の溝、平安時代後期の掘立柱建物群、井戸、溝などを検出。室橋遺跡では、弥生時代から平安時代にいたる遺構を南北500mの範囲で確認。両遺跡とも集落に伴う遺構以外に、灌漑に伴うと考えられる溝を多数検出。</p> <p>難波野遺跡の調査では、古墳時代中期には、川の浅瀬におよそ300個体の土器を「コ」字状に配列した水辺の祭祀遺構を検出。平安時代後期から鎌倉時代には、籠神社の門前町が広がっていたようで、紀年銘木簡、漆塗りの椀などとともに、井戸や建物跡を検出。</p> <p>宮津城の調査では、西外堀（大手川）沿いに大手門から三の丸南西端までを調査。枅形虎口の石垣・土塁、武家屋敷と城内道路を画する石垣、城内道路側溝、石垣暗渠排水溝などを検出。17世紀中葉までの三の丸の改変の様子が判明。</p> <p>谷奥古墳群の調査では、古墳時代前期後半から中期初頭にかけての、中小規模の古墳から構成される古墳群を調査。古墳の多くは、当地の弥生時代の伝統を引く墳丘の裾の明瞭でない低墳丘をもち、埋葬施設も簡素で、副葬品がきわめて少ないことが判明。</p> <p>中山城跡の調査では、主郭部分南方の縁辺部で調査を実施。接続して築かれた3重の堅固な土塁と堀及び、帯曲輪を検出した。その北側の尾根平坦地には、近世の古墓4基を調査し、錫杖などが出土。</p> <p>薪遺跡の調査では、水田の下から、古墳時代中期の円墳1基、後期の円墳1基、方墳2基が見つかった。円墳の周溝内からは、人物埴輪、家形埴輪、円筒埴輪などが出土した。また奈良時代の掘立柱建物などとともに須恵器、土師器などが多数出土。</p>								

備考：北緯・東経の値は世界測地系に基づく。